

埼玉県の結核 QFT 検査状況 (2008)

結核は、2006 年の結核予防法の廃止と同時に感染症法の改正により二類感染症に追加され、感染症法の一部施行により 2007 年 4 月から発生動向調査の対象となりました。2007 年 4 月～12 月までに、全国 20,151*例、埼玉県 1,237 例、2008 年は、全国 27,737*例、埼玉県 1,308*例の届出がありました(*は速報値)。

衛生研究所では、患者発生時に保健所が実施する接触者調査(定期外健診)を支援するため、2007 年 12 月からクオンティフェロン[®] TB-2G(QFT)を実施しています。2008 年当所で実施した QFT 検査は、接触者等 1,076 件で、そのうち陽性は 39 例(3.62%)でした(表 1)。

表1 年齢階級別結核検査件数(QFT 検査 2008 年)

| 結果 年齢階級 | 陽性 | 疑陽性 | 陰性 | 検査・判定 不能 | 計(%) |
|------------|----------|----------|-----------|-------------|------------|
| 0～5 | - | - | 11 | - | 11(1.02) |
| 6～9 | 3 | 2 | 27 | 1 | 33(3.07) |
| 10～19 | 4 | 6 | 169 | - | 179(16.64) |
| 20～29 | 17 | 21 | 411 | 1 | 450(41.82) |
| 30～39 | 7 | 9 | 195 | 2 | 213(19.80) |
| 40～49 | 7 | 8 | 150 | - | 165(15.33) |
| 50～59 | 1 | 4 | 14 | - | 19(1.77) |
| 60 歳以上 | - | - | 5 | - | 5(0.46) |
| 不明 | - | - | 1 | - | 1(0.09) |
| 計(%) | 39(3.62) | 50(4.65) | 983(91.4) | 4(0.37) | 1,076(100) |

検査キット判定基準適用外の年齢階級

QFT 検査は、結核菌の特異抗原刺激による細胞性免疫応答を測定する方法で、BCG 接種の影響を受けない特異性に優れた検査方法です。したがって、接触者を対象とした検査では、従来から実施されているツベルクリン反応検査(ツ反)による潜在性結核感染症のスクリーニングを補助するものとしてその有用性が期待されています。しかし、検査制度管理について、採血後検査に供試するまでの時間が短い(12 時間以内)こと、採血量が多い(5ml 以上必要)などが問題視されています。また、結果判定については、5 歳以下の幼児について、妥当な判定基準が確立されていない、感染暴露後 QFT が陽転するまでの期間(ウインドウ期)の詳細な観察が行われていない、ツ反と同様に過去の感染による陽性が含まれるなどの問題があります。潜在性結核感染症の診断には、総合的な判断が必要です。